

## 編集後記

- ◇ 本誌167号の特集には、昨年11月6日にオンラインで開催した「第3回ジャガイモシストセンチュウ類（PCN）抵抗性品種の普及に関する情報交換会」の講演内容について、講師の方から寄稿いただいた。抵抗性品種そして防除技術の開発を軸に展開されたプロジェクト研究の概要と、それぞれの研究成果が判り易く解説されている。
- ◇ 産地・業界情報のコーナーでは、大分県における「甘太くん」ブランドの歩みについてレポートいただいた。いちはやく「べにはるか」に着目して産地を復活させた経緯は本誌132号でも紹介しており、その続編という位置づけになる。バックナンバーは振興会のHPに掲載されているので是非、合わせて読んでいただきたい。
- ◇ 本年2月には「ばれいしょ加工適性研究会」と「かんしょ品質評価研究会」が開催されている。いずれも約20年ほど前に、ガット・ウルグアイラウンド（UR）対策の一環として設置され、現在、それぞれ（公財）日本特産農作物種苗協会、（一財）いも類振興会によって運営されている。
- ◇ 食品加工の用途ごとの代表的な実需者の協力を得て実践的な評価を行い、適性品種の開発と普及を加速しようという取り組みである。その成果として、近年、多くの品種が登録されるようになってきている。さつまいもでは、今回から焼きいもの評価テストの実施時期を業界の実勢に合わせて変更しており、今後、結果概要を順次、報告していきたい。
- ◇ 春も間近となり、三寒四温の繰返しに季節の移ろいが感じられる。我が家の小さな菜園でも、伝統野菜のノラボウ菜の芯を止め、その株間にジャガイモの種芋を植付けえている。今年は「はるか」「きたかむい」「とうや」「キタアカリ」。ホームセンターでの価格の高騰は止むを得ないとしても、品揃えが少なくなっていることに危惧している。
- ◇ 3月25日に、いも類振興会の令和7年度第2回通常理事会が開催され、令和8年度の事業計画および収支予算の承認を得た。このところ世界の政治・経済情勢は急速に不透明さを増しており、食料安全保障の観点からも国内農業そしていも類の役割は、これまで以上に大切なものとなっている。本年度も、いも類に関する有益な情報提供に努めていきたい。

（矢野哲男）

いも類振興情報 第167号  
2026(令和8)年4月15日発行

定価 1部 500円  
年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会  
〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303  
TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225  
E-mail: jrta@imoshin.or.jp  
郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社